

第40回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	永廣ゼミⅡ
チーム名	チーム末っ子
タイトル	STOP！！少子化
テーマ群	b) 財政・金融 c) 公共経済
メンバー	◎扇谷速人、伊丹智美、片岡由衣、金子康平、田村直子、松岡秀和 吉川ちはる、頼實二慧
研究計画内容	<p>ワークシェアリングと育児休業制度。私たちは、少子化を改善するための対策として、この2つをメインとした発表をおこないます。</p> <p>少子化とは、生まれる子どもの数が減少することです。これは少子・高齢化社会の原因となり、経済活動や社会保障などに大きな影響を与え、深刻な問題を生じさせます。そしてまさに、今日の日本は、その“少子化”という大きな問題を抱えています。</p> <p>少子化の原因の1つとして、未婚化・晩婚化が考えられます。この30年の間に男性は3.4歳、女性は3.9歳、平均初婚年齢が上昇しました。</p> <p>その他にも、最近テレビドラマでも話題となった、「ハケン」に代表される非正規社員の増加は、所得を減少させ、ますます少子化を加速させる原因となっています。</p> <p>では一体どうすれば、少子化を改善できるのでしょうか？</p> <p>私たちはまず、外国の成功例を見てみることにしました。登場する国は2つ。フランスとスウェーデンです。フランスはワークシェアリング、スウェーデンは育児休業制度が充実していることが分かりました。その結果、この2カ国では少子化が改善しつつあります。</p> <p>ここで考えたのが、フランスとスウェーデンの諸政策をモデルとして、それを日本流にアレンジしてみてもどうか？ということです。ただ、この2カ国のマネをするだけでは、人口や文化、政情などが異なるため、成功しないでしょう。</p> <p>そこで、私たちは提案します。</p> <p>それが、私たちの考える、日本版ワークシェアリングと育児休業制度。少子化を改善するための対策として、この2つをメインとした発表。この続きはぜひ、会場にお越しになり、あなたの耳で聴いてみて下さい。</p>

